

伝統を
次の世代に
つなぐ

おぢやんしょインタビュー③

想い咲く、おぢやの花火

おぢやまつり花火大会は、花火の大きさ、美しさはともにレベルが高く、見ごたえのあるプログラム構成。幅600mの超特大のスターメインが夜空を鮮やかな色で染め上げフィナーレを飾ります。片貝まつり花火大会は、正式には浅原神社秋季例大祭奉納大煙火とい、願いが込められた「奉納花火」や世界一の「四尺玉」が夜空に大輪の花を咲かせます。伝統ある花火を継承し、二つの花火大会を支える若き花火師のお二人にお話を伺いました。

花火を愛する住民の想いに、 花火師が技と情熱で応える

本田さん 片貝の花火は、地元の鎮守様のお祭を盛り上げるために、職人さんたちが花火を持ち寄って奉納花火として打ち上げたのがはじまり。時を経て、昭和55年、当時廃業しようとしていた花火店を、片貝花火の伝統を消してはいけないという思いで私の祖父が引き取った。それが、片貝煙火工業のスタートです。以来、伝統ある花火を継承し、安全を第一に考え、花火の製造と打ち上げを行っています。主に新潟県を中心に各花火大会を担当しています。四尺玉は、片貝の花火を愛する地域のみならずとも作りに上げた世界でここだけのオリジナル製品です。

瀬沼さん 明治末期、初代が小千谷・東京間の人力車営業のかたわら趣味で花火をつくり、各地のおまつりごとで好評を得たといわれています。その後、二代目が花火製造販売として創業。三代目の時、船岡町から山谷に工場を移転しました。

私は石川県出身で長岡技術科学大学に進学。その時四代目にあたる妻と縁があり、家業の小千谷煙火工業を継ぐことになりました。現在は、小千谷や長岡をはじめ県内各地の花火大会を担当しています。

安全第一を肝に銘じて、 常に新たなる技に挑戦

本田さん 県内の花火業界、特に私たち若手は仲がよく、頻繁に意見交換・情報交換を行っています。今後は、尺玉に強い小千谷・片貝の特色を生かしながら、チーム新潟として「新潟花火」のオリジナリティを磨いて、全国に世界に勝負していきたいですね。

瀬沼さん 勤と経験に裏打ちされた伝統の技をしっかりと受け継ぎながら、マニュアル化できるところは進め、さらに海外の花火技術も取り入れて、効率性・安全性・エンターテインメント性を追求していきたいと思っています。

Ojiya's fireworks reflect the wishes of its people.

Ojiya Festival Fireworks is advanced for the scale and beauty of the fireworks, and is programmed as a spectacular show. The 600-meter wide giant Star Mine closes the show as it paints the night's sky with brilliant colors. The Katakai Festival Fireworks is officially called the Asahara Jinja Autumn Festival Fireworks Dedication, and 'fireworks dedications' carrying the prayers of the people, and the world's largest '120cm diameter' fireworks illuminate the sky with brilliant burst of colors. We have spoken to two young fireworks technicians who are carrying on the trade of traditional fireworks and are supporting the two festivals.

有限会社
片貝煙火工業
本田 和憲さん

有限会社
小千谷煙火工業
瀬沼 輝明さん



玉貼り。玉込めで完成した玉に紙(クラフト紙)を何枚も貼っていく作業です。小千谷煙火工業は15名のスタッフの内9名が女性。女性花火師が在籍する会社は日本では珍しいそうです。



片貝まつり(浅原神社秋季例大祭奉納大煙火)。四尺玉は、直径120cm、重さ420kg、打ち上げの高さと開いた時の直径が800mにもなります。



おぢやまつり大花火大会。比較的打ち上げ場所が広く、上下左右と打ち分けることができるため、夜空をキャンパスにした多彩な演出を楽しめます。



玉込め。半球状の玉皮の内側に星を並べて、内側に割薬(玉を割るための火薬)を入れます。2つの玉皮を合わせて丸い一つの玉に完成させます。



星掛け。2mm程度の芯(球状)に、水で練った材料と乾いた材料を交互に何度も掛けて、すこすこ「星」(花火の光を作る火薬)を大きくします。



打ち上げ準備。資格を有するスタッフが、筒を並べ玉を込め、導火線(電気点火コード)をつなぎ、プログラムに合わせたセッティングをします。



尺玉の玉貼り。オーダーメイドの煙火紙(クラフト紙)を何度も貼っては乾かしを重ねて完成させます。